

# 【革新的な品種の開発（研究計画概要）】 政策ニーズに対応した野菜花き品種の開発

研究期間：令和8年度～令和10年度

研究機関：農研機構野菜花き研究部門、北海道農業研究センター

共同研究機関：長野県野菜花き試験場、鹿児島県農業開発総合センター、朝日アグリ株式会社、  
ホクレン農業協同組合連合

協力機関：ヤンマーアグリジャパン株式会社北海道支社

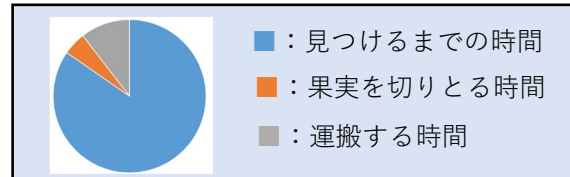
## 1. 研究背景・目的

我が国の野菜・花き生産では、地球温暖化の影響を受け、高温による生理障害や病害虫による被害の増加が懸念されている。そのため、耐暑性、耐病性に優れる野菜花きの新品種開発が望まれている。また、農業生産者人口の減少により、野菜花きの安定生産の継続も懸念されている。そのため、野菜類などでは機械収穫による安定生産が可能な品種や栽培面積当たりの収穫量の多い品種開発が求められている。

本研究では、野菜花き類において全国的に大幅な減収をもたらす病害に対して優れた抵抗性を保有する品種や、機械収穫に適した品種を開発することにより、地球温暖化や我が国の農業生産者減少などにも対応可能な野菜花き類の国内安定供給の実現を目的とする。



ブロッコリーの  
根こぶ病罹病個体



かぼちゃ果実収穫に係る作業時間割合

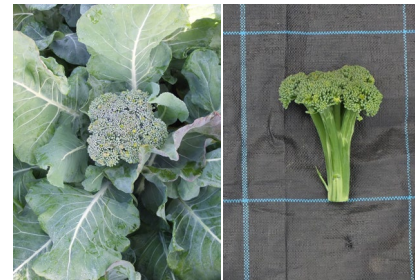
## 2. 研究内容

・ブロッコリーでは、

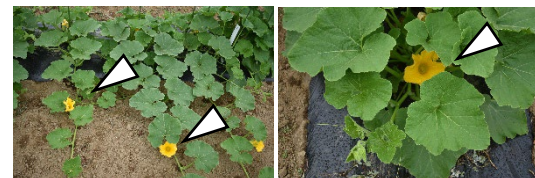
農研機構が開発した根こぶ病強度抵抗性育種素材と民間種苗会社が開発した優れた実用形質を有する親系統を用いた戻し交配、幼苗接種検定による抵抗性個体の選抜を複数回実施し、併せて、花蕾形質評価や高温耐性評価を行うことにより、優れたF<sub>1</sub>品種親系統を開発する。

・かぼちゃでは、

機械収穫に適した着果位置が株元に近い系統を公的研究機関を含めた4か所の試験地において栽培試験を実施し、着果位置や果実品質などの評価を行うことによって優良系統の品種登録を目指す。また、茎葉処理機および収穫機械による作業性も評価する。



ブロッコリー根こぶ病  
強度抵抗性育種素材



かぼちゃ既存品種（左）と株元に  
着果した品種候補（右）の雌花

## 3. 達成目標

・ブロッコリーでは、現在普及している品種と同等に優れた花蕾形質及び高温耐性に加えて、複数の根こぶ病菌に対して普及品種より強い抵抗性を有し、根こぶ病による被害の50%低減を可能とするF<sub>1</sub>品種の親系統を3系統を選抜し、R12年度までにF<sub>1</sub>品種を1品種以上開発する。

・かぼちゃでは、株元から1m以内に安定して着果し、収穫時に果実が見つけやすく、機械収穫に適し、既存品種と比べ1割以上の収量増加が得られる品種をR10年度までに1品種開発する。

上述のような課題目標を達成することにより、地球温暖化や農業生産者減少などの状況においても、我が国の野菜花き類の国内安定供給を実現する品種開発を目的とする。